

# ローマ、ビジョンを確立する - 第十三号

ローマをめぐる論争：獣の像の最後の試練を理解する

Jeff Pippenger

2024-09-01

アドベンチストの歴史に起こったさまざまな論争の考察を、現在の問題についての理解をまとめるために行を行を重ねて統合するにあたり、私たちは五つの預言の系統から選ばれた特徴を取り上げてきた。最初の系統は最後の系統でもある。というのも、いずれの論争も、ダニエル11章14節の「あなたの民を奪う者たち」に直接基づいていたからである。私たちは、ウライア・スミスとジェームズ・ホワイトをめぐる論争、そしてダニエル書における「日ごとのもの」をめぐる論争を考察した。さらに、1989年にダニエル11章の最後の6節の封印が解かれた後に生じた、北の王に関する論争も考察した。次に、ヨエル書の四つの虫を取り上げた。これらの各系統に加え得ることはまだ多くあるが、私たちは、ローマという主題に関わる真理を退けた立場に寄与した、ある特定の特徴だけを抽出しているにすぎない。

五つの歴史があるが、第一のものが最後のものでもあるため、六本の線を表す。これらの論争の線の予言的背景は終末の時代であり、このため、これらの線は獣の像の試練の際に適用される。

主は私に、猶予期間が終わる前に獣の像が形成されることを、はっきりとお示しになった。というのも、それが神の民に対する大いなる試練となり、それによって彼らの永遠の運命が定められるからである。……

「これは、神の民が封印される前に受けなければならない試験である。」『Manuscript Releases』第15巻、15頁。

獣の像の形成に関する試練は、他の六つの争点と同様に、ローマという預言的主题に関わる試練である。神の民が封印される前に起こる大いなる試練は、ローマの獣の像の形成に関するものである。その獣は教皇権であり、アメリカ合衆国は、間近に迫る日曜法へと進む中で、教皇権の像を形作る。

「アメリカ合衆国が獣の像を造るためには、宗教的権力が世俗政府を支配し、教会が自らの目的を遂げるために国家の権威をも用いることができるようにしなければならない。」『大論争』443ページ。

米国におけるその日曜法は、獣の像が米国で完全に形成されたことを示している。

しかし、世俗の権力によって宗教的義務を強制するというまさにその行為において、諸教会は自ら獣の像を造ることになる。したがって、アメリカ合衆国における日曜遵守の強制は、獣とその像の礼拝の強制にほかならない。『大論争』、449。

日曜法が施行されると、アメリカ合衆国において獣の像は完全に形成され、アメリカ合衆国は神から完全に切り離される。そして、全世界に獣の像を造らせるよう強制するという予言的な働きを開始する。アメリカ合衆国で日曜法が施行される時、サタンはその驚く

べきわざを開始し、世界の諸国民を導いて、世界中のすべての国々を包含する獣の像を形成する過程を繰り返させる。

「神の律法に反して教皇制度の確立を強制する布告によって、わたしたちの国は義と完全に縁を切ることになる。プロテスタント主義が深い隔たりを越えてローマの権勢の手を取ろうと手を差し伸べ、さらに深淵を越えて心霊主義と手を結び、この三重の連合の影響のもとに、わが国がプロテスタントかつ共和政の政府としての憲法のあらゆる原則を否認し、教皇的な虚偽と惑わしの流布のための規定を設けると、わたしたちは、サタンの驚異的な働きがなされる時が来ており、終わりが近いことを知るのである。」『証言』第5巻、451頁。

米国で間もなく日曜法が制定されるとき、サタンは米国と協力して、政教一致の体制をつくり日曜礼拝を強制するという米国の手本に、すべての国々が倣うよう強いる。

サタンは地に住む者たちを欺くために奇跡を行うだろう。心霊主義は、死者を装わせることによってその働きを進めるだろう。神の警告のメッセージを聞くことを拒む宗教団体は、深い惑わしに陥り、聖徒たちを迫害するために世俗の権力と手を結ぶだろう。プロテスタントの諸教会は、神の戒めを守る民を迫害するにあたり、教皇権と連合するだろう。これこそが、人々の良心に対して霊的専制を行使する大いなる迫害の体制を構成する力である。

『彼は子羊のように二本の角を持ち、竜のように語った。』神の子羊に従う者だと公言しながら、人々は竜の霊に染まってしまう。彼らは柔和で謙遜だと称するが、サタンの霊をもって語り、立法し、自らの行為によって、自分たちの公言とは正反対の者であることを示している。この子羊のような権力は、神の戒めを守り、イエス・キリストの証を持つ者たちに戦いを仕掛けるにあたり、竜と結びつく。そしてサタンはプロテスタントと教皇派と連合し、この世の神として彼らと歩調を合わせ、人々に命令を下す。あたかも人々が自らの王国の臣民であり、自分の思いのままに取り扱われ、統治され、支配されるべきものであるかのように。

人々が神の戒めを踏みにじることに同意しないなら、竜の霊が露わになる。彼らは投獄され、評議会に引き出され、罰金を科される。「彼は、小さな者も大いなる者も、富める者も貧しい者も、自由な者も奴隷も皆、右の手か額に刻印を受けさせる」[Revelation 13:16]。「彼には獣の像に命を与える力があり、その獣の像が語り、また獣の像を拝まない者は皆、殺されるようにした」[verse 15]。こうしてサタンはエホバの特権を篡奪する。罪の人は神の座に着き、自分こそ神だと宣言し、神の上に立つかのように振る舞う。『Manuscript Releases』第14巻、162頁。

教皇権は獣であり、国際連合は竜であり、アメリカ合衆国は偽預言者である。反キリストの意味について混乱する者は、サタンであり、かつサタンの地上の代理者であるローマ教皇でもある反キリストの側に付くことになる。

アメリカ合衆国は罪の人ではない。罪の人とは反キリストであり、彼はサタンの地上の代理人である。教皇制を地上の王座に据える権力と教皇制そのものを混同することは、真理を愛していない証拠であるとパウロは示している。テサロニケ人への第二の手紙2章に示されているように、異教ローマは教皇権を押しとどめており、教皇権が現れるためには

異教ローマが取り除かれる必要があった、という預言的關係を退けることは、聖靈の注ぎを退け、聖ならざる靈の注ぎを受け入れることであり、パウロはそれを強い惑わしと呼んでいる。とはいえ、古代の預言者たちは皆、自分たちの生きた時代よりも終わりの時代について、より直接的に語った。

「古代の預言者たちは、それぞれ自分たちの時代のためというよりも、むしろ私たちのために語ったのであり、それゆえ彼らの預言は私たちに対して効力を有している。『これらの事が彼らに起ったのは、皆、私たちへの戒めのための実例であって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいる私たちを訓戒するためである。』コリント第一 10:11。『彼らは、自分たち自身のためではなく、あなたがたのためにそれらのことに仕えていたのであって、そのことは今や、天から遣わされた聖靈によってあなたがたに福音を宣べ伝えた人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのである。これらのことは、御使いたちも見たいと切に願っているのである。』ペテロ第一 1:12. …」

「聖書は、この最後の世代のために、その宝を蓄え、ひとまとめに束ねてきた。旧約聖書の歴史におけるすべての偉大な出来事と厳粛な事柄は、この終わりの時代の教会において、これまでも、そして今もなお、繰り返されている。」『セレクトッド・メッセージズ』第3巻、338、339頁。

異教ローマと『テサロニケ人への第二の手紙』における罪の人は、終末時代のアメリカ合衆国と教皇ローマを表している。この真理を誤解することは、少なくとも、たとえ自分の私的解釈が「型と反型」の原則に基づいていると主張していても、実際にはその「型と反型」を理解していないことを示している。アメリカ合衆国は、聖書の歴史においていくつかの勢力によって型示されてきた。二本の角を持つあらゆる勢力は、イスラエルの北王国と南王国であれ、メド・ペルシャ帝国であれ、あるいはソドムとエジプトに象徴される無神論のフランスであれ、終末時代のアメリカ合衆国を表している。

アメリカ合衆国が獣の像、すなわち獣のための像を形成する時期は、ダニエル書2章の鉄と粘土、ダニエル書8章で男女として現れる小さい角、さらにカルメル山でのエリヤの証しにおけるバアルの預言者と林の祭司によって型示されてきた。サロメは、ヘロデの酒に酔った誕生日の宴の証しにおいて、アメリカ合衆国を象徴している。ペルガモはアメリカ合衆国を象徴し、テアテラへと至る妥協を明らかにする。テアテラは、終末の教皇権を象徴している。

496年のフランク王クロヴィスは、ロナルド・レーガン時代のアメリカ合衆国を象徴している。533年のユスティニアヌスは、日曜法に先立つドナルド・トランプを表している。それぞれの類型において、アメリカ合衆国は、終末の時代の教皇権に屈服してひれ伏す権力を表している。

屈服してひれ伏す側の権力は、ローマに臣従の礼を尽くすものとして表される。

「臣従の礼」という行為には、元首である王にひれ伏すことが含まれる。

小羊のような角を持つ獣に象徴されている勢力がアメリカ合衆国であること、そしてローマが自らの至上権の特別な承認であると主張する日曜遵守をアメリカ合衆国が強制するとき、この預言が成就することは示されてきた。しかし、教皇権へのこの敬意

の表明において、アメリカ合衆国は単独ではない。かつてその支配を認めた諸国におけるローマの影響力はいまだ消し去られるにはほど遠い。しかも、預言はその権勢の回復を予告している。「その頭のうちの 하나가、死に至るほどの傷を負ったかのように見えた。しかしその致命的な傷は癒え、全世界はその獣に驚嘆して従った。」3節。致命的な傷を負わされたことは、1798年の教皇権の失墜を指し示している。

「この後、預言者はこう言う。『彼の致命的な傷は癒え、全世界は獣に驚嘆して従った。』パウロは、『不法の人』が再臨まで存続すると明言している。テサロニケ人への第二の手紙 2:3-8. 時の終わりに至るまで、彼は欺きの業を推し進める。また、啓示を受けた者も、やはり教皇制に言及してこう宣言する。『地に住む者で、いのちの書に名の記されていない者は皆、彼を拜むであろう。』黙示録 13:8. 旧世界と新世界のいずれにおいても、ローマ教会の権威のみに拠って立つこの日曜制度を尊ぶことを通して、教皇制は崇敬を受けるであろう。」『大いなる論争』578.

最後の一文は、シスター・ホワイトが「旧世界」をヨーロッパ、「新世界」をアメリカ大陸を表すものとして理解していたことのさらなる証拠となっている。そうである以上、アメリカ合衆国は教皇権に屈し、世界の他の国々にも同じことを強いる国である。これは、アメリカ合衆国が教皇権の指示に従属していることを示している。堅く立つために「頭」を理解することに関するイザヤの指摘と強調は、「頭」という象徴が外的な預言の系統を理解する鍵となり、また内的な預言の系統を理解する鍵ともなるという点に、その神的目的が見いだされる。

アラムの頭はダマスコ、ダマスコの頭はレツィン。六十五年のうちにエフライムは打ち砕かれて、もはや民ではなくなる。エフライムの頭はサマリヤ、サマリヤの頭はレマリヤの子。もしあなたがたが信じなければ、必ず堅く立つことはできない。イザヤ書 7:8、9

終わりの時、すなわちすべての預言者の証しが効力を持つ時には、「あなたの民の暴徒」が幻を確立する。証の霊の権威に基づき、またハバククのものに示されたアドベンチズムの基礎的真理と一致して言えば、「暴徒」はローマの象徴である。異教ローマが紀元前200年に初めて歴史に姿を現したとき、それは終末の現代ローマを予表していた。この予言的真理こそが終末の予言的幻を確立するものであり、もしあなたが現代ローマの「頭」が教皇権であることを認めようとしなければ、あなたは確かに堅く立つことができないだろう。

「世界は嵐と戦争と不和に満ちている。だが、人々は一つの頭-すなわち教皇権-のもとに結束し、神の証人において現される神に敵対する。」『証言』第7巻、182.

聞く耳のある者は、キリストの時代のユダヤ人の主要な過ちは、「影」を「実体」と同一視したことにありと理解するだろう。十字架の前も後も、彼らは自分たちの礼拝制度における諸々の型に信頼を置き、反型を退けた。彼らは「影」が「実体」だと主張し、そうすることで、靈感による記録の中に、終わりの日にもまた影を実体と見なす民の姿を残した。

アメリカ合衆国が獣の像を作るとき、それは獣の影を形づくっていることになる。像とは型を示すものだから、実体の影を形づくっているのである。獣の像を作るときアメリカ

合衆国を現代ローマの象徴と見なすことは、古代イスラエルが大いなる反型を拒み、十字架につけたことに比するものである。

アメリカ合衆国が「あなたの民の略奪者」であるという誤った見解を教える者たちは、しきりに自分たちの「型と反型」の用い方を語り、しばしばアメリカ合衆国を「獣の像」と同定し、アメリカ合衆国を「獣の像」と同定することが、なぜかアメリカ合衆国が「略奪者」であることの証明になると考えている。もし本当に「型と反型」という基本原則に従うなら、神の言葉の中で繰り返し型として示されてきたアメリカ合衆国の預言的役割は、アメリカ合衆国を教皇権の支配下にある権力として指し示していることに、すぐに気づくはずである。また、獣を基準点としないまま、存在しなかった「獣の像」を特定しようとするのは不条理であることもわかるだろう。「獣の像」を規定できる唯一のものは獣そのものである。というのも、鏡の中の幻において、その像を確立するのは教皇権だからである。

アメリカ合衆国が獣の像を造ることと並行する預言的な事柄は、真のプロテスタンティズムの角がキリストの像を形づくる時である。その形成は、ダニエル書十章において、ダニエルが「marah」すなわち「鏡」の幻を見たときに、具体的に示されている。ダニエルはキリストを仰ぎ見る者たちを代表しており、そうすることによって彼らはキリストの品性を映し出す。もしダニエルにキリストの幻が示されなかったなら、彼はキリストの品性を反映することはできなかつたであろう。ダニエル書十章でダニエルによって代表されている十四万四千人が、内にキリストの像を形づくるためには、彼らはキリストの品性を仰ぎ見なければならぬ。見つめることによって彼らは変えられる。

しかし、私たちはみな、顔のおおいを取りのけ、鏡の中に見るように主の栄光を仰ぎ見て、栄光から栄光へと、同じ姿に変えられていきます。これは主の御霊によるのです。コリント人への第二の手紙 3章18節

ダニエルが第十章で見た「marah」の幻のヘブライ語の定義は、「幻。さらに（使役的に）鏡：-鏡、幻」である。前の節で「glass（鏡）」と訳されているギリシャ語は、「自分自身を映す、すなわち（比喩的に）映ったものを見る：-鏡に見る」という意味である。

ジェームズはまた、鏡に結びついた一筋の真理を述べている。

もし、誰かが御言葉を聞く者であって行う者ではないなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡に映して見る人のようです。彼は自分を見てそのまま立ち去ると、すぐに自分がどんな者であったかを忘れてしまいます。しかし、自由をもたらす完全な律法をよく見つめ、それにとどまり、忘れっぽい聞く者ではなく行う者であるなら、その人はその行いにおいて祝福されます。ヤコブの手紙 1:23-25。

もし私たちが真理を愛し、それゆえ御言葉を行う者であるなら、私たちが見つめる鏡は自由をもたらす完全な律法です。しかし、もし真理を愛さず、その後、ダニエルと共にいた者たちが逃げたときにそうしたように自分の道を行くなら、その鏡は単に私たち自身の姿を映すだけです。

「神の律法は、人間をあるがままに完全に映し出し、彼の前に正しい姿を掲げる鏡である。ある者は背を向けてこの像を忘れ、またある者は、あたかもそれで自分の品性

の欠陥が治るかのように、律法を罵倒する。さらに、律法によって罪に定められた者の中には、自らの背きを悔い改め、キリストの功績を信じる信仰によって、キリスト者の品性を完成する者もいる。」『信仰と行い』、31。

ダニエルは鏡の幻視の中に自分自身を見たのではなかった。彼が見たのはキリストであり、キリストはヤコブの完全な自由の律法の完全な表れである。

地上におけるキリストの生涯は、神の律法の完全な反映である。キリストのうちには、いのちと希望と光がある。彼を仰ぎ見れば、あなたは品性から品性へと同じ姿に変えられる。時のしるし、1910年5月10日。

獣の像は獣を映し出す。獣の像が造られることは、神の民にとっての大きい試練であり、それによって彼らの永遠の運命が定まる。プロテスタント諸教会がアメリカ合衆国の政府を掌握するとき、彼らは、ローマ教皇権が常に用いてきた教会国家体制の像を形作ることになる。同じ時期に、キリストの御姿が、彼の終末の民のうちに形づくられる。しかし、ダニエルと共にいた者たちはその幻を見なかった。彼らはその幻から逃げ去ったからである。

キリストの御姿が形づくられることは、二種類の礼拝者の現れを生み出す。一方の一群は、反映の原理を退ける。反映の原理は鏡によって表される。というのも、キリストは天に属する霊的な真理を表すために、地上の文字どおりの事柄を用いられるからである。

キリストのたとえ話における教えには、キリストご自身のこの世への使命と同じ原則が見られる。私たちがその神聖なご性質と生涯を知ることができるよう、キリストは私たちと同じ人間性をお取りになり、私たちの間に住まれた。神性は人性のうちに現され、見えない栄光は見える人間の姿において示された。人々は既知を通して未知を学ぶことができ、地上の事柄を通して天の事柄が明らかにされ、人に似た姿において神が現れた。キリストの教えも同様であった。未知は既知によって示され、人々になじみ深い地上の事柄によって神の真理が明らかにされた。

「聖書はこう言っている。『イエスはこれらすべてのことを群衆にたとえで語られた。…それは、預言者によって語られたことが成就するためである。「わたしはたとえで口を開き、世の初めから隠されてきたことを語ろう。」』マタイ13章34、35節。自然の事柄は霊的なものの媒介であった。自然界の事柄と聞く人々の生活経験は、記された御言葉の真理と結びつけられていた。このようにして自然から霊的な御国へと導きつつ、キリストのたとえは、人を神に、地を天に結び合わせる真理の鎖の環となっている。」 Christ's Object Lessons, 17.

反映という霊的原理は、キリストを象徴する鏡を見つめることによって成就される。そして、「marah」の幻視は原因作用をもつ幻視であるため、鏡の中のキリストの像が、人間のうちにキリストの像を生み出す。

アメリカ合衆国こそが幻を確立するのだと主張するのは、ダニエルの像こそがキリストを確立するのだと主張するのと同じである。キリストこそが、ご自身の品性と働きの幻を確立し、反キリストは自らの品性と働きの幻を確立する。幻は鏡に映し出されるものであり、その幻は略奪者たちによって確立される。獣の像を実際の獣と同一視して誤解すると

、平行線が生じる。

回心していない者は、鏡に自分自身しか見ない。あるいは、たとえ神の律法が見えたとしても、その要求から逃れようとして律法を軽蔑する。回心した者は、鏡の中にキリストとその律法を見る。アメリカ合衆国は、教皇権を見てそれを模倣することによって、教皇権に似せた像を作り上げる。反キリストはアメリカ合衆国によって再現される。

ルシファーは、神の政治的・宗教的な王座に座ることを望んだ。

ああ、暁の子ルシファーよ、いかにして天から落ちたのか！  
諸国を弱らせた者よ、いかにして地に切り倒されたのか！ あなたは心のうちに言った。「私は天に上り、神の星々の上に自分の王座を高く掲げよう。私はまた、集会の山、北の果てに座ろう。私は雲の高みを越えて上り、いと高き方のようになろう。」  
エゼキエル 14:12-14.

サタンは反キリストであり、教皇権もまたそうである。教皇権は教会に座し、ヨーロッパの政治の玉座を支配した。ダニエル書第十章の因果を生む鏡は、その霊的適用において見ると、それを見つめる者をキリストのかたちへと変容させる。その真理が反キリストの系譜を支配する。国家であれ個人であれ、鏡の異象をのぞき込むと因果的な効果が生じ、それは見る者である個人または国家のうちに自らの像を再現し、そしてキリストのかたちか獣の像のいずれかを生み出す。これはダニエルによって表されたのと同じ作用に対応している。ダニエルのためにその異象を確立したのはキリストであり、アメリカ合衆国が獣の像を造るとき、その異象を確立するのは反キリストである。

これらの考察は次回の記事で続けます。